建設技術審査証明事業（建築技術）
審査技術概要シート

建設技術審査証明事業実施機関
一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

［審査証明番号／有効期限］	ＢＣＪ-審査証明-175／2030年7月26日
［技術の名称］	施工時環境配慮型改質アスファルト防水工法 「ＢＡＮＫＳ工法（ノンケトル冷熱併用省力化工法）」
［依頼者（審査証明取得者）］	田島ルーフィング株式会社

［技術概要］

ＢＡＮＫＳ工法（ノンケトル冷熱併用省力化工法）＜以下、ＢＡＮＫＳ工法＞は、一般平面部の第1層目として、裏面側にストライプ状の自着層（部分接着層）を有し、かつ表面側に防水工事用アスファルトに相当する、易溶融改質アスファルトを工場生産により均一な厚みでコーティングした、下貼用改質アスファルトルーフィングシートを冷工法（自着工法）で施工する。次に、第1層目の表面の改質アスファルト層をバーナーで溶融し、たまりを形成させながら、第2層目の改質アスファルトルーフィングを貼付け積層する、溶融釜不要の冷熱併用型改質アスファルト防水2層工法である。

ＢＡＮＫＳ工法は、既審査証明取得技術である環境配慮型アスファルト防水工法「ストライプ＆クリーン工法（冷熱併用省力化工法）」（BCJ-審査証明-30）＜以下、ストライプ＆クリーン工法＞において、施工現場で溶融釜を使用することによる現場制約を排除し、かつ全層を改質アスファルトで構成する事で、従来のアスファルト防水熱工法と同等以上の性能、信頼性を有する工法である。

［開発の趣旨］

従来のアスファルト防水熱工法は、防水工事用アスファルトを用いてルーフィングを 3～4 層積層して防水層を形成させる工法であり、信頼性の高い工法であるが、作業効率の問題と溶融アスファルトから発生する煙と臭気による環境上の問題がある。

これらの問題点の軽減を図ることを目的に、「ストライプ＆クリーン工法」を開発し、技術審査証明の交付も受け広く普及しているが、「ストライプ＆クリーン工法」は省力化、省層化を達成したものの、低発煙・低臭性の防水工事用アスファルトを溶融するために、大型の溶融釜装置が必要であり、工事現場での搬入・設置・移動といった制約が問題点として残っていた。

ＢＡＮＫＳ工法は「ストライプ＆クリーン工法」の防水理論を踏襲した2層工法であるが、低発煙・低臭性の防水工事用アスファルトに相当する易溶融改質アスファルトが第1層目に使用するルーフィング表面に工場生産により均一な厚みでコーティングされている。よって、施工時はこの第1層目にコーティングされた易溶融改質アスファルトを、小型の施工工具（バーナーと専用転圧ローラー）によって溶融しながら、第2層目の改質アスファルトルーフィングを貼付け積層する事が可能である。下地側の防水層表面を溶融しながら施工する工法であるため、従来の熱工法と同様に溶融アスファルトの充填状態（たまり）を目視確認しながら施工できるため、確実な防水層形成が可能である。

これによって、ＢＡＮＫＳ工法では溶融アスファルトでルーフィング間を充填する従来の熱工法と同様な防水層形成方法を踏襲しながら、前述の２工法と同等の防水性能を有しつつ、問題点の軽減を図ることが可能である。

［開発目標および審査証明結果］

本技術について、前記の開発の趣旨、開発の目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

(1) 在来工法であるアスファルト防水熱工法と同等の性能を有す防水層を確実に形成できるものと判断される。

(2) アスファルト防水熱工法及びストライプ＆クリーン工法（冷熱併用省力化工法）と比較し、環境負荷の軽減、現場制約の軽減が図れるものと判断される。

［本技術の問合わせ先］
田島ルーフィング（株）
営業企画部テクノサービス課
TEL　03-6837-8880

本概要シートは、土木・建築関係団体により設立された「建設技術審査証明協議会」の会員として、一般財団法人 日本建築センター（BCJ）が実施した「建設技術審査証明事業（建築技術）」の結果を広く紹介する目的で作成したものです。